

7 大和神社ちゃんちゃん祭り [無形民俗文化財]

〔所在地〕 天理市長柄町・三昧田町・佐保庄町・萱生町・兵庫町・新泉町・成願寺町・岸田町・中山町

〔保持団体〕 大和神社宮総代会

〔概要〕

天理市新泉町の大和神社で行われる4月1日の例祭は、旧大和郷に該当する9町の氏子による祭礼で、一般に「ちゃんちゃん祭り」の名で親しまれている。祭りでは、各町で1年交代の頭屋が選ばれ、祭りの期間に自宅の玄関に門飾りを飾る。また、頭屋1軒につき十歳頃までの男子が頭人児となり、頭屋とともに神事に参加する。祭りは3月23日の宮入りからはじまり、祭り当日まで頭屋と頭人児は毎日神社に参拝するが、31日の宵宮渡りでは頭屋に産子幣が授与される。

4月1日午前例祭の神事があり、午後にはお渡りに参列する人々は装束に着替えて各町から境内に集合する。本社及び摂社である増御子神社の両神輿を中心に、各町の産子幣、山鉾や風流傘等の様々な持ち物、馬上の甲冑武者、楽人等に扮した100名を越す行列は、一の鳥居から上街道を南下する。岸田町市場垣内のお休み所では、本社神輿が石の周りを3度半回った後、兵庫町の龍の口舞が行われる。中山町の御旅所に一行が到着すると、中山町以外は所定の場所に座り、頭屋と頭人児を上座にして遅めの昼食をとる。大和稚宮神社では神前に両神輿が安置され、御旅所祭が始まる。また稚宮神社の西に位置する歯定神社では中山町の氏子から、各町の頭屋が順に呼び出され、献饌と交換に粽等を受け取る。歯定神社の行事が終わると、頭人児全員が稚宮神社に参拝し、龍の口舞と新泉町の翁の舞が行われる。最後に中山町の氏子が粽を撒き、各町の人々は競ってこれを拾う。往路と同じ道を還御した一同は、拝殿での神事後、頭屋と頭人児が昇殿し、産子幣を返還する。拝殿前で龍の口舞と翁の舞が奉納されて神事が終了し、神職から各町の頭屋に産子幣の幣紙が授与される。

大和神社のちゃんちゃん祭りは、宮座の代表である頭屋・頭人児や神霊を祀る頭屋宅の門飾りをはじめとして、各町ごとに伝統的な頭屋祭祀がよく残されている。15世紀には4月1日の神事で神輿2基が岸田町のお休み所を通り、中山町方面へ神幸する形態をすでにとっていたこともわかっている。また、地元には江戸初期から記された宮座文書も伝わる。

龍の口舞、翁の舞のような芸能的要素を残した行事が付随しており、神社から御旅所への風流行列による賑やかなお渡りを特徴とした大和の古い祭礼の形を伝えるものとして貴重である。

